雑穀料理でもてなそう

花巻 GT受け入れ農家が講習会

花巻市内のグリーン・ツーリズム（GT）受け入れ農家を対象にした地産地消料理講習会が13日、同市野田の花巻農協本店で開かれた。同市でGT受け入れ数が減少傾向にあることから受講者は農業体験時の食事メニューに取り入れようと、同市の魅力をPRするため花巻産雑穀を使った料理を学んだ。

受け入れ農家が雑穀料理を学んだ地産地消料理講習会

同講習会は、都市部の生徒受け入れる際、花巻をPRするメニューの参考にしてもらうとともに、農家の受け入れ拡大につなげようと、はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会、県南広域振興局花巻農林振興センター、市が初めて合同で開催した。

花巻地域の受け入れ農家15人が受講。市内の雑穀料理グループ・イーハトーブひみこの会、生活研究グループが講師を務めた。

イナキビを使ったのり巻き「花寿し」をはじめ、「たかきびとひえのスープ」、市の家庭料理コンテストで最優秀賞を受賞した米粉料理の「母ちゃんのやきもち」に取り組んだ。受講者は料理の作り方や特徴をメモしながら調理に励んでいた。

受け入れ6年目で同市湯本の伊藤民子さん(73)は「雑穀を使っていろいろな料理ができるのが分かった。受け入れた子供たちと一緒に作ってみたい」、同8年目の同市高松の川村育子さん（61）は「とても勉強になった。雑穀料理はもちろん、ほかにもさまざまな事にチャレンジして花巻をPRしていきたい」とそれぞれ意欲を新たにしていた。

講習会は同日、東和地域でも行われ、14日は大迫、石鳥谷の両地域で開催される予定。

"最高峰"の技指導

ハンドボール実業団選手

花巻 中高生にアドバイス

ハンドボールの社会人チーム・豊田合成ブルーファルコンの選手たちが12日、花巻市本館の県立花巻北高校で、地元の中高生と交流会を開いた。日本のトップリーグで活躍する社会人選手たちが、正しい技術やプレーのこつなどを生徒たちにアドバイス。基本やマナーの大切さを通し、ハンドボールの楽しさを伝えた。

トップレベルの選手から生徒たちが技術を学んだ交流会

交流会は日本リーグの公式戦（11日、盛岡市）開催に合わせて企画され、豊田合成の選手やスタッフ23人が参加。同校や花巻南、花巻農の3高校と花巻、花巻北の2中学校の選手約70人に、〝最高峰〟の技を伝えた。

豊田合成の選手たちは、自ら手本を示しながら体の使い方やパス、シュートの技術を指導。一瞬のタイムロスが展開を左右する競技だけに、無駄な動きをなくすための身のこなしや、効率良いプレーのこつなどを繰り返し教えていた。

生徒たちはトップレベルの選手に近づこうと懸命に学び、中にはアドバイスを生かした動きで見事なシュートを決める場面も。豊田合成の選手から「ナイスシュート。今のはいい感じだったよ」などと声を掛けられ、生徒たちのうれしそうな笑顔があふれていた。

参加した花巻中2年の葛巻和君（13）は「フェイントやシュートの仕方が勉強になった。教え方も優しくて分かりやすかった」と、満足そうに話していた。

世界身障者野球でMVP

白藤さん（花巻出身）偉業祝福

花巻市東町のホテル花城で11日夜、神戸市で11月に開催された第2回世界身体障害者野球日本大会で優勝し、最優秀選手（MVP）に選ばれた白藤友一さん（42）＝同市中根子出身＝を祝う会が開かれた。学生時代から白藤さんを知る地元の男女が集い、仲間の偉業を祝福した。

祝う会は、白藤さんの同級生を中心に約20人が出席。先月6、7日の両日、神戸市のスカイマークスタジアムで開かれた大会のダイジェスト映像で白藤さんの活躍を振り返り、乾杯やマジックショー

白藤友一様の世界一を祝う会

花巻ゆかりの芸術家紹介

６人のアーティスト作品を紹介している萬鉄五郎記念美術館の「花巻市アートコレクション展」

花巻市東和町の萬鉄五郎記念美術館は、「花巻市アートコレクション展」を共同企画展のテーマにした。花巻とゆかりの深い萬鉄五郎、平澤屏山、寺島貞志、松本竣介、内村皓一、池田次男の6人の美術家を紹介している。

萬鉄五郎記念美術館

ぐるっと
花巻・再発見！
共同企画展──⑤

萬鉄五郎は1885年、同市東和町土沢に生まれた。西洋の新しい美術運動である後期印象派、フォービスム、キュビスムの先導的な役割を国内で果たし、晩年は南画への傾倒など独自の絵画表現の確立を目指した。主な展示作品は「太陽と道」など19点（常設除く）。

平澤屏山は1822年同市大迫町に生まれ、北海道函館に移住した。当時のアイヌの姿を描き、その風俗画は民族学の視点からも貴重といわれている。展示は「蝦夷風俗十二ケ月屏風」。

寺島貞志は1905年石川県生まれ。二科会の「造形」に参加した後、渡欧してパリとモスクワで絵を学び、社会主義リアリズムに傾倒。45年に妻の故郷の花巻に疎開し、以後、花巻周辺の農村風景などを力強いタッチで描いた。展示は「バラと花びん」など5点。

松本竣介は1912年東京生まれ。2歳の時に父親の仕事の関係で花巻へ移住し、盛岡市に転居するまで7年間過ごした。都会の風景を独特な叙情的視点で静謐（せいひつ）かつ強固な画面を創造した。展示は「丸の内風景」など6点。

内村皓一は1914年盛岡市に生まれた。花巻で印刷業を営む傍ら、国際サロニストとして写真作品を海外の展覧会で発表し、多くの受賞歴を持つ。展示は「大南門の朝」など30点を数える。

池田次男は1938年北上市生まれ。花巻市に在住し、抽象画からリアルな写実表現に移行。花巻を中心にモニュメンタルな大作を残した。作品は「影」など29点。

いずれも花巻とゆかりの深いアーティストたちで、花巻の風土から生み出された芸術作品が鑑賞できる。

工夫凝らし演奏、朗読共演

花巻 チューチューマリンが公演

工夫いっぱいの演奏が聴衆を楽しませた「チューチューマリン」のコンサート

花巻市在住のチューバ奏者・谷藤綾香さんと、マリンバ奏者・江越海さんによるユニット「チューチューマリン」のコンサートが11、12の両日、市内2会場で開かれた。チューバの包容力ある響きとマリンバの軽快な音色が、多くの聴衆を喜ばせた。

このうち、12日夜に同市星が丘のるんびにい美術館で開かれたコンサートに

慶弔

【花巻市】（11、12日）

誕生

□花巻 ▽菅原萌叶ちゃ
▽猫塚陽雅ちゃ
□東和 ▽佐藤銀志郎

結婚

□花巻 ▽折原友紀さ
▽細川真吾さ
▽白藤裕介さ

お悔やみ

□花巻 ▽阿部眞彦さ
▽伊藤武男さ
▽工藤慎一さ
▽照井正一さ
▽小田島サワ
▽菅原イシさ
▽市川良弘さ
□石鳥谷 ▽畠山正子さ
▽村上進さん
□東和 ▽菊池ヤヨさ